

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

なし

(発行年 / Year)

1910

案ハ質借權八權ト爲シタリ

第七節 賃貸借

(理由)既成法典ハ普魯西民法等シク質借權ヲ權ト、又速國民法ノ如キハ質借權ハ之ヲ登記シテ

物權ト爲ストコト得セントセルモ本來ハ全クノ人權トテ消費性借及ヒ使用賃借ト一列ニ規定

シタルナリ其理由他シノ質借權契約ノ目的トスル所ハ質借人ヨリヘ借手ヲ拂ヒ質貸人ハ質借人ヲレ

テ製約三從其質借物ヲ使用セシムルニアリテ此權利人權ヌコト蓋レ人ノ爭ハサル所ナレハナ

リ之ヲ人權トスルハ羅馬法以來ノ慣例ニシテ嗣迦晉通法ノ解釋トシテモ亦之ヲ人權トスルモノ多ク

且多歐國ノ民法ノ於アハ明カニ之ヲ人權ナリト言ヘリ

既成法典ハ他用借權ヲ人權トシ唯借權ヲ權トシ唯借主ヨリ報酬ヲ支拂フノ有無ニ因リテ借主ノ權

利ニ物權人權ノ差フ生セシムハ決シテ其當ヲ得タルモノアラス況ヤ既成法典ニ於テモ質借權

ヲ物權トナカラ尙貸人ニハ質借權ヲ修繕シ若クハ諸般ニ妨碍ヲ除キ以テ質借人ヲシテ契約上ノ

利益ヲ得セシムルノ義務アルヲ認ムルモノナルガ以テ寧ロ質借權ハ全クノ人權トスルニ如カラヌアリ

之ヲ物權トスル重ナル理由ハ以テ能ク此權利ヲ第三者ニ對抗アルヲ得セシメントスルニアレトモ人

權ナレハト必シテ第ニ對抗シ得サルニアラス登記シテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノト

スルハ毫毛ノキナリ從フ又速國民法ノ如ク登記ヲスレハ人權變更ヲ物權ト爲ルトスルニモ及ハサ

ルナリ而シテ人權ト認ムルハ我國從來ノ慣習ニモ合フ以テ此慣習ト且フハ多數ノ例ニ敵セ

既成法典ハ賃借権ヲ物權トシタルヲ以テ其規定ノ序次ノ如キモ第一款賃借権ノ設定第一款賃借人ノ權利第二款賃借人ノ義務第四款賃借権・消滅トマレトモ本來ハ之ヲ人權トシタルニ因リ其規定ノ序次ニモ亦多少ノ變更ヲ加ヘ第一款總則第一款賃借権效力第三款賃借貨終了トセリ

第一款 總則

(理由) 本款ハ既成法典附錄第百五十九條乃至第一百五十五條ニ該當ス其修正ヲ施コシタル部分ハ各條ノ理由下記之ヲ述フヘシ唯其百五十六條及ヒ第一百五十八條ハ或ハ本來ノ關スル所ニアラズ或ハ言フヲ得タル所ナリヨ以テ前例ニ依リテ之ヲ削除シアリ

第六百四條 賃借借ハ當事者ノ一方カ或物ヲ相手方ニ使用セシムルコトヲ約シ其相手方カ賃借ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

(理由) 本條ハ既成法典附錄第百五十九條及ヒ第一百七十七條ニ當ル既成法典ハ賃借権ヲ物權トシタルヲ以テ其定義ノ文字モ亦自ラ本來ト異レリ又之ヲ物權トシテ追贈ノ目的トナリ得ルモノトシ而モ必ラス賃借契約ノ以テ設立ベキモノトセルニ因リ第百五十九條第二項ノ如キ規定ヲ要シタルモ本來ノ主義ニ依レハ決シテ此ノ如キ條文ノ必要ヲ見ス

同様第三項ハ賃借権ヲ現シタル場合ニ關シテ規定ニモ本來ハ既ニ賣買ノ部ニ豫約ノ規定ヲ置キ之ヲ總ノ雙務契約ノ準用スルコトシタルヲ以テ特ニ賃借場合ニ之ヲ再言スルヲ要セサルナリ

第六百五條 管理行爲ヲ爲ス能力又ハ權限ヲ有スル者カ賃貸出ヲ爲ス場合ニ於テ

ハ其賃貸借ハ左ノ期間ヲ越ユルコトヲ得ス

- 一 山林ニ付テハ十年
- 二 其他ノ土地ニ付テハ五年
- 三 建物ニ付テハ三年
- 四 動産ニ付テハ六年

(理由)

木條ハ山林漁業等ノ事ニ關シテ農商務省及ヒ内務省ノ報告ヲ開クマテ未定トセリ

第六百六條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間満了前土地ニ付テハ一年建物ニ付テハ三個月動産ニ付テハ一个月内其更新ヲ爲スコトヲ要ス

(理由) 本條ハ既成法典附錄第百二十條ニ該當ス同條ハ満了前ノ告知期間ニ關シテ土地・賃借権

三分牧場樹林付テハ一个年其他ノ土地ニ付テハ六个月トマレトモ此細別ハ徒ニ煩フ増スミナラス耕地ニ付テハ一个年ノ期間ヲ要スルモノルヲ以テ旁本案ハ通シテハ一个年半セリ尙同條ニハ同一ノ期間ヲ以テ賃借権更新スルヲ得ストキハ同一ノ期間ニアラスシテ前賃借ノ期間ヨリも短ク又ハ長き期間ノ賃借更替スル時ノ間隔ニ付テ得ス

新ノ爲ハヌ得ルカノ疑スルヲ以テ同一期間ニ付テハ之ヲ省ケリ

同條第二項ハ佛法ノ主義ニ從ハハ或ハ其必要アルモ本來ノ如ク管理人カ其能力若クハ權限ヲ越ユテ規定ノ期間ヨリも長キ賃借権シタルトキハ其長ノ部分ヲ無効トスルノ主義ヲ取ル以上ハ決シテ

此規定ヲ要セサルヘシ。代理人ノ権利行爲ハ本人ニ於テ之ヲ無効トスカ又ハ之ヲ追認スルカノ
選擇權ヲ有スルコト代理ノ通則ナムカ故ニ此通則ヲ以テ足レリトスヘキトナリ。

既成法典財產編第百二十九條ハ之ヲ削除ス蓋し取消レ得ヘド行爲ハ無能力者ヨリ之ヲ取消レ得ルノ
ミニシテ質借人ニ其權ナムハ總則ノ規定ニ因リテ明ラカナリ又質借人ヨリ本人追認ヲ爲スヤ否ヤ
確答フ。催告スルコト並ヒニ本人ヨリ確答フ爲ササル場合ノ結果ノ如キセキ既成法典シアルヲ以
テ更ニ茲ニ規定スルヲ要セス。

同編第一百二十一條ニハ管理人、金錢外、有價物ヲ貸賣ト爲シテ質貸スルコトヲ得ベト明旨スレモ
此明言ナキモ實際ニハ必クル此如クナルヘシト信シテ之ヲ削除セリ。

第六百七條 賃貸借ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長短期間ヲ
以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス。

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス。

(理由) 本條ハ既成法典財產編第百一十五條、該當ス既成法典ハ三十年ヲ以テ永借權、質借權ヲ區別スルノ根柢トシ國民法及ヒ憲法民法草案等之例多クアレドリ本案ハ我國ノ慣習、採用十年ヲ以
テ永小作ト普通小作及ヒ其證ノ質借權ヲ一分づ境ト爲シタリ從來我國ニ於ケル小作ノ慣例ヲ見ルニ
多ク八年タノ小作ニシテ毎年ノ更新シ舊ハ之ニ異ズモセノアルモ長きモ四年若ハ五年ナリト
レ普通ノ小作ニシテ十年ヲ超ユルモノハ極メテ種ナリ家屋フ建築スルノ目的ヲ以テ土地ノ質借スル

トキハ十年ヲ越ルモノアリト雖セ此如キモノニハ地上權ノ規定ヲ適用シテ可ナルヘキトヲ以テ遂
ニ本條ノ如ク賃貸借ノ期限ヲ十年トシタルナリ。

第二款 賃貸借ノ效力

(理由) 本條ハ既成法典財產編第百二十三條乃至第百四十四條ニ該當シ主トシテ質貸人及ヒ質借人ノ
權利義務ヲ規定シタルモナム其餘既成法典中削除シタル條文ヲ揚クレハ左ノ如シ。

第一百二十六條ニハ質借人ハ用益者ト同一利益ヲ收ムル權利ヲ有スト言ヘルモ本案ニハ用益權ナキ
ヲ以テ之ヲ削除ス。

第一百二十七條ニハ質借人ハ質借物ノ占有ヲ要求スルヲ得ト言ヘルモ此ハ質借借人ノ性質ヨリ當然生スル
ノ結果ナリ又同條然レトモ以下ハ質借權、用益權ト近似セキモノト看做スノ結果ニ遇キシテ本案ニ
ハ之ヲ規定スルノ必要ナキニ因リ同條全然之ヲ削除ス。

第一百三十條ノ規定ハ外國ニ其例多キモナレトモ本案ハ既成法典中削除シタルヲ以テ同條ノ如キ條文ヲ要セサルニ至レリ
洪ク之ヲ一般ノ有價契約三準用スヘキヨリシタルヲ以テ同條ノ如キ條文ヲ要セサルニ至レリ

第一百三十七條モ亦前同様ノ理由ニ因リテ之ヲ削除ス。
第一百三十九條ハ質借人ノ有スル訴權ニ關ニテ規定セリ本案ハ訴權ノ事ハ成ヘタフ民事訴訟法ニ讓
ルノ主義ヲ採リシニナラヌ同條ノ如キハ極メテ明白ナニヨリコトナルヲ以テ之ヲ削除ス。

第一百三十七條第一項ニハ質貸人又ハ質借人ハ相手方ヲ立會ハレメテ質借物ノ目録又ハ形

狀書ヲ併シヲ得トセルモ此ノ如キ事ハ凡て當事者ノ自由契約委スルヲ可トス又同第三項及四項ニ形狀を若ヘハ目録ヲ作ラシリ場合ニ下スベキ推定セルモ法律ヲ下スヨリモ寧ニ各場合ニ證書問題トシテ之ヲ判官ノ認定ニ委スル可ベ是レ同條ヲ削除シタル所以ナリ

第百四十九條第一項ハ貸借人ハ公課ヲ負担セス若シ之ヲ拂ヒタルトキハ貸借人ヨリ其償還ヲ請求スルコトヲ得セリ現今ノ租税法ニ依ルトキハ租税ハ地主ヨリ之ヲ徵收スヘキコトセルヲ以テ本項適用ハ多クタク見サルベレ又同條第二項ニ掲ケタル公課ノ貸借人ノ負担タルハ言ヲ待タルアルフ以テ同條ハ全然之ヲ削除セリ

第六百八條 不動產ノ貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ其不動產ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

(理由)既ニ章首ニ於テ述べタル如ク既成法典ハ貸借権ノ物權トセリニ因り之ヲ第三者ニ對抗シ得ルハ當然コトケル也本來ハ此權利ヲ人權爲シタルフ以テ之ヲ第二著者對抗セシムハ時別ノ明文ヲ必要ナリトス而シテ不動產ノ貸借ハ登記ヲ必要トシ登記シタル後ハ效力ハ不動產物權ノ登記レタルセリト同ドノ佛國民法及ロ本國民法案ハ本款トシノ不動產ノ貸借権ノ登記シタル許ズモ佛ニアリテハ十八年白ニアリテハ九年ノ越ニル貸借權ニ限リア登記シタルモトセリ是レ非ナリ實ニ足ラス

第六百九條 貸貸人ハ貸借物ノ使用ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ

賃貸人カ賃貸物ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲サント欲スルトキハ賃貸人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

(理由)本條ハ既成法典附編第二百二十九條及ヒ百三十條ノ原則ヲ採用シタルモノニシテ其根柢ニ至テハ相向シカナル所アリ但ナ既成法典ニアリハ其戸内水道管等ノ賃借人ノ負担ト推定セルモ民事慣例類要等ノ示スニヨレハ此等修繕ニ多ク賃貸人ニ於テ負担スルモノノ如キ之ヲ解除スルヲ得サルモトセルノミ此制度モ亦決レテ十分ニ賃借人ノ權利ヲ保護スルセシムルニアルヲ以テ我國ノ慣習ハ既成法典ノ規定ニヨリ寧ロ無理ニ適ヒルモノナラン本款ハ細目ニ渡リ何等ノ規定ヲ設ケス總テ當事者ノ契約者ハ各職方ノ慣習ニ一任スルコトシテリ同條第一項ニ於テ賃借人ハ自己若クハ其屋人ニ過失懈怠リ必要トナリタル修繕ヲ負擔スル旨ハル可如キハ賃貸人謂ハレ

第六百十條 貸貸人カ賃借人ノ意ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ

之カ爲メ賃借人カ賃借フ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

(理由)木條無成法典通鑑第二十九條第二項ニ修正加タルモノナリ同項ニハ修繕カ一ヶ月

ヨリ長ク續テキハ賃借人ハ借貸ノ減少ヲ請求スヘコトヲ得トシメリ他國ニ其例ナキニアラモ

ルモ既修繕ノ爲ヘ賃貸人ノ権利ナリトセルニ賃貸人其權利ノ行使シタレバト借貸ノ減少ヲ要

求セラル、コトナルハ聊不當ナルノミナラス借貸ノ減少ヲヘナ額ニ關シテモ亦屢々爭ふスヘ

キフノ木條ハ此ノ如キ規定ヲ採ラス

無成法典ニハ賃借人ヨリ賃借ヲ解除シ得ル場合ヲ限リノ賃借人カ住居スヘモ全部又商業若クハ

工業ニ極メテ必要フル部分ヲ失フヘキ場合トシルモ決シテ解除場合ノ制限ベシノ必要ナク苟クモ、

賃借人之カ爲メニ賃借ノ爲タル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルトキハ何時モテモ賃借ヲ解除シ得ルモノトシテ可リ故本條ノ如ク規定シ一方ニ於テハ借貸減少ノ規定ノ廢シノ類似ナル問題ノ發出スルヲ防クト同時ニ又一方ニ於テハ賃借人ノ解除ヲ爲シ得ヘマ場合はノガト保証ニ勉

メタリ

第六百十一條 賃借人ハ賃借物ニ付キ賃貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出タシタル

トキハ賃借人ニ對シテ直ナニ其償還ヲ請求スルコト得

賃借人カ有益費ヲ出たシタルトキハ賃貸人ハ賃借終了ノ時ニ於テ第百九十七

條第一項ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ賃貸人ノ請求ニ因リ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

(理由)木條ノ規定ヘ無成法典ニ無キ所ナルモ既ニ借用賃借ニ於テ此種ノ規定ヲ設タル以上ハ賃借信

二於テモ亦決シテ無カルヘカラナルモノナリ既成法典用益權ニ關シテ用益者ハ改良費ヲ償還ヲ請求

ムタルコト得スト言ヒ賃借人ニ用益者ト同一ノ権利認ムヲ以テ賃借人モ亦蓋シ改真費ノ償還ヲ請求スルモノセサルモノトセルカ如キモ賃借人ハ賃貸人ノ物ニ改良ヲ加ヘテ其價額ヲ増加セシメ

之カ爲メニ費用ヲ要タルニ賃貸人ハ何等ノ報償ヲモ出サシ其利益ヲ享受スルハ聊カ不當ノ利得タ

ルヲ免レス從ク木條ハ改メテ賃貸人ヨリ改良費ヲ償還スヘキ事トタリ必要費ニ至リテセモ賃借

ニ關シテハ借貸契約中何等ノ規定ヲ見サム使用食借ニ關テハ貸主ハ借主ノ支出シタル必要費ヲ

ヲ辨償スヘント言居テリ賃借ト使用借貸ノ間ニ決シテ此區別ノ附スヘキヨリ理ナキフ以テ木條ハ

必必要費ニ關シテ亦賃貸人ヨリ之ヲ償還スヘキヨリ明言セリ而シテ其則限ニ至リテハ必要費ト改真費トノ間ニ區別ヲ要セシムハシク出タルトキ直ナニ其償還ヲ請求シ得ルモノト有有益費ハ賃

貸借終了ノ時ニシテ諸承シ得ルモノトセリ蓋シ二者ノ性質異ナリテ要用ノ度ニ縦義ノ差アリニ因レハナリ

第六百十二條 収益ヲ目的トスル士地ノ賃借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少ナキ
収益ヲ得タルトキハ其収益ノ額ニ至ルマテ賃借ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但宅

地ノ貸貸借ハ此限ニ在ラス

十

(理由) 本條は舊法典附編第百三十二條ニ當リ即チ小作料減免ノ問題ヲ決シテルモノトス抑モ我

皇國ハ古來農ノ以テ國ヲ建ア中古ヨリ近代ニ至リ農事ハ漸フ追ニ開發シテリシモノニシテ其舊俗

慣例ノ見ルヘキモノ跡カラス殊ニ地主ト小作人ノ關係ノ如キ各施設固有ノ慣習ヲ存シ之ヲ知得ス

ルハ立法者尤モ注意ヘキ所タリ觀察ニシテ其方法ヲ誤レ無故ノ小民ヲ虐待ノ苦ニ置キ時シテハ不穩暴動舉出テシムルモ計ルヘカラス就中屢之カ原因トスルモノハ小作料ノ檢定及ヒ減免

ノ方法如何ニリトス小作利三關スル慣習ハ全國孰ノ地方ニ有シ而モ全ク相シカラス從テ之ニ關スル一定法解設タルコト頗ル困難ナリトス之ヲ條文ニ關シテハ余輩ハ最モ慎重ヲ加ヘ廣ク

全国各地ノ慣例ノ集ニ利害關係者ノ意見ヲ聞キ沈思熟慮ノ上素ノ起シ數回ニ審議討論ヲ經タル上始メ本條ノ如ク確定シタルモノトス而モ尙ホ決シテ強要命令ノ規定ニアラシシ別段ノ契約ナヒ

ヒ慣習ハ十分ノ之ヲ認ム且收益ノ計算貸借減少ノ方法ノ如キニ關シテハ何等ノ規定アモ置カシシテ一二契約及ヒ慣習ニ委シルコトセリ或ハ全タ之ヲ契約及ヒ慣習ニ委シ何等ノ條文ヲモ設ケサルヲ可トスト言フ者アランシレモ苟クモ貸借人及ヒ貸借人ノ權利ヲ規定スルニ當リ獨リ貸借減少ノ事

ニ關シテ何事ヲ言ハサルトキハ論理上ノ結果貸借人ハ如何ナル場合ニ於テモ權利シテ貸借ノ減少ヲ請求シ得サルコトナラン若シ此ノ如クナルトキハ貸借人即チ小作人等ノ困難シテ如何ゾヤ之ヲ思ヘハ少フトモ貸借人ハ借貸ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ル場合アリトノ規定ナカルヘカラス然

レ簡單 減少ヲ請求スルヲ得ト言ヒ其如何ナル場合ニ於テ之ヲ請求スルハサレハ實際ニ當リテ區別ノ標準ヲ立テ難キコトナフ木案ハ此標準ヲ貸借人小作料ヨリ少ナキ收益ヲ得タルトキシタリ之ニ因テ能ク法律ノ體裁ヲ得又漸少ニ關シテ何等ノ契約及ヒ慣習ゼナキ萬ノ場合ニ應スルヲ得ルニ至リ標準ノ何タルヘキニ關シテハ種々ノ說アルセシ今一々茲ニ列舉スルコトヲ爲サヌ唯既成法典ニ掲ケル標準ノ詳シテ傍ラ木案ノ意見ヲ示サン

原本ニハ毎年ノ收益三分之二以上損失ヲ致シタルトキハ貸借人小作料ヨリ少ナキ收益ヲ得タルトキスルコトヲ得ヒリ其割合トハ如何ナル割合ナルカ明カナリサトモ先づ普通ニ解シテ收益減少ノ割合トセシナ例ニハ毎年六分ノ收益アリテ三石ニ相當スル貸借支拂フ然ノ年ニ當リテ收益六分ノ年ヨリモ二石減スルトキハ借貸も亦從テ二石ヲ減少ヲ得ベカラズ比倒因ニ之ヲ見レハ既成法典ノ標準ハ公平ヲ得タルカ如クナルモ我國ノ小作料ハ頗ル偏重ニシテ概ね收益五分之二分ヲレ甚ダシキハ七分八分ヲモ納ルコトアルヲ以テハ此ノ如キ場合ニ既成法典ノ標準ヲ採ルトキハ四年三當リ小作人ハ收益ノ全額ヲ悉ニ拂テ尙ホ足ラサルコトアラン例ハ毎年二十石ノ收益アリテ十五石ニ相當標準ノ非ナル一例リ然ラ更其標準ヲ變シテ毎年ノ收益四分ノ若クハ五分ノ減少スルトキハ

借貨ノ減少ヲ要求スルヲ得トセハ可ナラント言フモノアレトモ尙本タ全カラタガ所アリ且其割合ノ計算ノ如キモ實際ニ當リテ困難之生ヘキヨ以テ寧ロ木槧ノ如ク一定スルヲ可ナリト信シタルナ

リ本條ノ規定固ヨリ多少ノ缺點ナシト言フニアラサレト多クノ標準中其尤セ優ナルモト信レ特別ノ契約若クハ慣習ナキ場合ニ限リテ之ヲ適用スルコトトシタリ

既成法典ニハ廣々貸借人ト言ヘルヲ以テ宅地ノ貸借人モ亦此権利ヲ有スルモ本條ハ我國多數ノ慣例ニ從セヒ宅地ノ貸借借ニハ本條ヲ適用セサルコトセリ尙ホ既成法典ニハ戰爭、旱魃等ノ不可抗力又

ハ官ノ處分云々ト言ヘドモ本條ハ官處分ニ亦當事者ノ眼ヨリ見レハ不可抗力ナル以汎ク不可抗力ト言ヒ而シテ其例ヲ揚ケス

第六百十二條 前條ノ場合ニ於テ貸借人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上借貨ヨリ少ナキ收益ヲ得タルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百三十九條第三項修正ヲ加ヘタルモノナリ同條ニハ「借物」引續キ三年三及ハサレハ「貸借借」解除スルヲ得ムセシモ借貸人ヲテ其勞働ニ對シテ何等ノ所得ニ無カラシムルコト三年ニ渡ラシムハ少シク然失スル所アリト信シ且承小作ノ場合ト、權術上改メテ之ヲ二年トヒ蓋シ歐洲諸國ニ於テハ我國如ク高額ノ借貸ノ借貸人三課セサルヲ以テ既成法典ノ如クニテモ或ハ可ナラント雖モ我國ニ於ク此種權取ルコト能ハサルナリ

第六百十四條 貸借物一部カ借貸人ノ過失ニ因ラスシテ滅失シタルトキハ貸借

人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ借貨ノ減少ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ残存セル部分ノミニテハ貸借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ貸借人ハ契約ノ解除ヲ得

(理由) 本條ハ既成法典財產編第二百三十九條第三項及二同第百四十條修正ヲ加ヘタルモノナリ第百四十條ノ成文ヲ見ルニ賃借物一部滅失シタルトキハ貸借人ハ第百三十一條ノ條件ニ從テ貸借借ノ解除スルカ又ハ借貸ノ減少ヲ要求スルヲ得トシ而シテ第百三十一條ニハ妨害ノ爲メ毎年ノ収益カ三分一以上損失シタルトキハ借貸ノ減少ヲ請求スルヲ得石ノ妨害カ三年ニ及フトキハ賃借借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得セル三因リ條文解釋シテハ賃借物一部滅失シ夫レカ爲メ三収益カ三分一以上滅失シタルトキハ借貸ノ減少ヲ請求スルヲ得石ノ妨害カ三年ニ及フトキハ賃借借ノ解除ヲ得ルモノトナル算案ノ理由書ヲ見ルトキハ貸借人三年ヲ待タスルテ直ニ契約ノ解除ヲ請求シ得ルモノノ如シト雖モ條文ヲ正當ニ解釋スルヲキハ決シテ理由書ノ如クナラサルナリ且其又ノ據モ理由書ニ據ルモ契約ヲ解除シ又ハ賃借借ノ減少ヲ得ルト否トノ邊界ハ収益ノ減少三分一トナリアリトストレモ借貸ノ減少ハ零日一般賃借物滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ常三爲スヘキコトシ而シテ如何ニ借貸ノ減少スルモ現行一部分ニミニテハ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルト能ハサルトキニ契約ヲ解除シ得ルモノトシ成ヘタ事實ニ基シ實際ノ便宜ニ應セシムヘレ是上本條 規定タル所以アリ

右第百四十九條第二項ニハ賃借物ノ一分の徵收セラレタルトキハ賃借人ハ常ニ借貸ノ減少ヲ要求スルコトヲ得シ其理由トスル所ハ公用徵收、際ニハ賃貸人ハ常ニ之カ賃借ヲ得ルヲ以テ其借貸ヲ減

セラル、モ可ナリトスルニアレトモ公用徵收、際ニハ賃借人モ亦相當ノ賃借ヲ得ヘキヲ以テ此上ニ更ニ借貸ヲ減少スルヲセサルナリ從テ特別ノ減少ノ規定ヲ爲ササルヲ可トス特別ノ規定ナケレハセラル。

本條ハ總テノ場合ニ適用セラル、コト勿論ナリ

右第百二十一條第二項ニハ賃借物ノ一分、毀滅スル場合ニ關シテ規定スル所アルモ此ノ如キ場合ニセ亦本條ヲ適用スレハ可ナリト信シテ之ヲ前原示セリ

第六百十五條 貸借人ハ賃貸人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス

賃借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ物ノ使用ヲ爲サシメタルトキハ賃貸人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

（理由）既成法典ハ賃借人ハ自由ニ賃借權ヲ讓渡シ之ヲ抵當ト爲シ又ハ其賃借物ヲ轉貸スルヲ得ルヲ原則セリ蓋シ既成法典ニ於テハ賃借權ヲ物權ト認メシヲ以テ自ラ此種ノ原則ヲ採用シタルモノニシテ外國ニ於テモ既成法典ト同一ノ主義ヲ採用レルミ、尠ニラス佛國伊國瑞西白耳義及ヒバイエルノ如キ是レナリ又單ニ賃借物ノ轉貸ヲ許スノアリ佛國一讀會草叢及ヒ英國ノ主義ハ即チ其例ノリ然レモ聽ニ我國現在ノ慣習ヲ見ルニ其多々ハ之ヲ許ササルニアルヲ以テ本來ハ賃借權ノ讓渡抵

當及ヒ賃借物ノ轉貸ハ之ヲ自由ニセサルヲ原則トシ唯賃貸人ノ承諾アルカ若クハ別段ノ慣習アル場合ニ於テノミ之ヲ認ムルコトシタリ而蘭普魯亞並ニ獨逸第二讀會草叢ノ如キハ本來ト同一ノ主義ヲ取レ

本條第一項ノ規定ニ反シタル場合ニ賃貸人與ニル救濟ニ關シテ規定セルモノナリ

契約ノ總則ハ於テ當事者ノ一方其義務ヲ履行セサルトヨ相手方ハ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得トセル、因リ其適用ヲ以テ十分ナリトシ從テ本項ハ給足ナリト言フ者アランカナレトモ本條第一項ハ唯賃借人ノ讓渡シ又ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得スト言ヘルノミニレテ未タ賃借人ニ何等ノ義務ヲ負ハシメタルベト謂ヒ難キヲ以テ寧ロ明カニ之ヲ記載シテ賃貸人ノ保護スルニ如カスト信レタルナリ

第六百十六條 貸借人カ過法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉貸人ハ賃貸人ニ對抗スルコトヲ得ス
テ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借貸ノ前拂ヲ以テ賃貸人ニ對抗スルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ賃貸人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス
（理由）本條第一項ハ轉貸ノ場合ニ於テ賃貸人ノ利益ヲ保護セリモナリ一般ノ原則トシテハ轉貸ハ賃貸人ノ承諾アルニ非レハ之ヲ爲スコトヲ得ス既ニ賃貸人ノ承諾アルトスレハ之ニ與フルニ轉貸人ニ對スル直接ノ権利ヲ以テスルモ可ナリ本條第三百二十一條ニハ既ニ賃貸人ノ先取特權ハ轉貸人ノ動産及ヒ賃貸人ノ受クヘキ金額ニモ及ブトモ以テ今一層ノニ擴張シ賃貸人ト賃借人トノ間ニハ

直接ノ権利關係ヲ生セシムルモ何ヲ不可カアラニ又轉借人ニアリテモ貸貸人ニ對スル義務ノ範圍ハ唯自己ノ轉貸借三因リテ負擔シタルモノニ止マリ先キノ貨貸借契約ニ因リテ貸貸人ノ負擔セル義務

ノ如何、大ナルモ之ニ關係ヲ有セサルナリ
本條第一項ノ未文ハ之ニ因テ貸貸人ノ権利ヲ棄却シ又轉借人ト轉借人トノ間ニ詐欺ヲ共謀スルヲ

防ケタル事スルモノニシテ既成法典債權擔保編第五百一十條第二項規定ニ該當ス

本條第二項ハ既成法典財產編第三百三十四條第三項ノ規定全ク同一ナリ

第六百一十七條 借貸ハ動産、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末三其他ノ土地ニ付テハ毎月末ニ付テハ

每年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其期節後遲滞ナク之

ヲ拂フコトヲ要ス

（理由）借貸ヲ拂フノ時期ニ關シテハ諸國ノ規定區々ニシテ我國ノ慣習モ亦全ク一定セリト言に難シ

既成法典財產編第五百三十八條ニ之ヲ規定シ先フ金錢ヲ以テ借貸ト爲シタル場合ト果實ヲ以テ借貸

ト爲シタル場合トヲ區別シ前者ニアリテハ毎月末ニ後者ニアリテハ收穫後ドストモ此ノ如半區別

ハ不適當ナリトシ全ク貨物ノ性質ニ因リテ借貸支拂ノ時期ヲ區別シタリ（ハバ一八）ハ削除。

第六百一十九條 貨物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ権利ヲ主張スル者アルトキ

ハ賃借人ハ遲滞ナク之ヲ貨貸人ニ通知スルコトヲ要ス但賃借人カ之ヲ知ルトキ

ハ此限ニ在ラズ

（理由）賃借人ハ自ラ貨物ヲ修繕ノ爲スヨリ要セシス貨貸人ヲヨリ爲シタルコトヲ從テ物カ損壊シテ使用シ難キニ至ラントセシ必ム賃借人ニ通知シ來リテ之カ修繕ヲ要求スシト雖モ時トシテハ懈怠シテ其通知ノ爲サニ又要約期間ノ終了ニ近ヅクニ當リテハ面倒ナリトテ特別ニ此通知ヲ爲サ

サルコトアラン爲メニ貨物ヲ損傷ヲ生スヘキヲ以テ特ニ法律ニ明文ヲ設シテ賃借人ニ通知ノ義務ヲ負担セシメタルモリ後半即ハ第百一十九条ノ妨害ヲ通知スル義務ハ既成法典財產編第五百一十二條第二項ト全ク同一ナリトス

第六百二十條 第五百九十六條第一項第五百九十九條第一項及ヒ第六百條ノ規定ハ賃借物ニ之ヲ準用ス

（理由）既成法典財產編第五十一條及ヒ第五十八條乃至第五十六條ハ用益者カ用益物ノ關シテ有スル

權利ヲ規定シ而シテ同第五百二十上條ヲ以テ之ヲ賃借人ニモ適用スルコトト且資借人ノ賃借物ヲ使用スル方法ニ關シテハ更ニ第五百三十二條及ヒ第五百四十一條ニ於テ特別ノ規定ハセシム其餘項概ル細密ニ涉リ且遼例ヲ舉ケテ見完全ルカ如キヨ須羅ニ失シテ却テ足ラサル所アリア覺ニ本來ハ賃借取扱ニ關シテ一々詳細ノ規定ヲ設ケテ其實借物ノ使用方法之カ遼遠ノ時期及ヒ遼遠實際ノ如ケル物ノ樹木等ノ先賃權ヲ認メス尙前節理由ヲ參照スベシ

第六百二十一條 前十二條ノ規定ハ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

(理由) 既成法典モ本案ト等レク質貸借ニ關シテハ反對ノ契約若ダハ慣習ヲ認ムル場合ナキニ非サレ
トモ其事ノ権利義務ニ付テノミ之ヲ認メタルヲ本案ニ於アハ汎ク一般ニ之ヲ認メ一條ニ標括レドリ
ヲ規定シタリ

第三款 貸貸借ノ終了

(理由) 本款ノ規定ハ既成法典財産編第四百四十五條乃至第四百五十四條ニ該當ス其中削除シタル條文左
ノ如シ

第四百四十五條ハ言フヲ特ダサル事ナルヲ以之ノ削除、但其第五条ニ關シテハ後述フ所アルヘシ
第四百四十六條ノ改修ニ關シテハ前款第六百二十四條ニ理由述フ、即ちヲ速ヘタリ
第四百五十三條第一項ニハ收穫物ヲ收去スル前賃貸借、終了セントキハ専水賃借人フレタ之ヲ收去ス
ルヲ得セシム可シト、本案ニ於テハ第六百十一條ニ以テ賃借人ハ賃貸人ヨリ改真賃ノ償還ヲ得
ヘキエノトセリ、因リ該條ニ適用トシ質借人ヒ其妻セリ、收穫物ニ對スル補償ヲ得ベク若シ質貸人
ニシテ之ヲ拂フ、欲セサレハ合意ノ上質借人フレタ自收穫物ヲ收去セシムヘキヲ以テ特ニ法律上
ノ干涉ヲ爲シテ既成法典ニ於ケルガ如キ條項ヲ設ケルヲ要セオナル又同條第二項モ干渉ニ失シテ
賃借人ハ権利ヲ縮少スル傾向アルニ因リ同條ハ全然ノト削除シタリ

第六百二十二條 當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテ
モ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ

經過シタルニ因リテ終了ス

一 土地ニ付テハ一年

二 建物ニ付テハ一个月

三 貨物及ヒ動產ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃貸借ニ付テハ其期節後大ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申

入ヲ爲スコトヲ要ス

(理由) 既成法典財產編第四百四十五條第一項第五號ヲ見ルニ質借權ハ解約申入ノ後一定ノ期間ノ満了

スルニ四リテ消滅スルノトシ同第百四十七條第三項及ヒ第百四十九條第一項ニハ賃貸借ハ解約申

入ニ依リテ終了スルモノトシテ賃貸借ナルモノハ果シテ申入レナル行為ニ因リテ直ニ消滅スルモノ
ナルヤ或ハ申入後ノ期間滿了ニ因リテ消滅スルノナルヤ判明シ難キニ其主意ニ存スル所ハ賃貸借

ハ解約申入ニ因リテ直ナ終了スル賃借人ハ唯後ノ處置ヲ爲ス爲メニ一定ノ期間或ル権利ヲ與ヘラル
ルモノ如シ然レバモ賃貸借ニ終シタル後賃借人ニ此無名ノ権利ヲ生ヌルヘナリト信シ本案ハ

右第百四十五條ノ如ク賃貸借、解約申入後一定ノ期間經過スルニ因リテ消滅スルコトシタリ
同編第一百五十一條ハ土地ノ賃貸借ニ付テハ主タル收穫季節ヨリ六ヶ月前ノ不耕作地等

ニ於テハ返却シム可ト時期ヨリ一年前ニ解約申入ヲ爲ス可シトセリ此區別ニ我國ノ現在ニ達
用スルヲ得ス解除ノ豫告期間ニ關スル我國ノ慣習區タナルモ耕作ノ多クハ一年ノ以テ收穫ノ期間ト

シ一年ノ中ニ屢収穫ヲ爲ス地モ亦少トモ其計算ニ關シテハ一年ヲ以テ期間トスルモノ多ク從テ土
地ニ關スル契約ノ期間ハ何種ヲ問ハシシテ一年ナムヲ通常トスルヲ以テ本同ノ如キ場合于ソラエ
概シテ一年ノ期間ヲ與フルヲヨレトベ既成法典、如ク耕地ト不耕地ノ間ニ區別ヲ附レタハ毫モ有理
山ナキ所ナルヲ以テ寧ロ一般ノ原則トシテ上地、後告期間ハ通シテ之ヲ一年トスルヲ可ナリト信
アルナリ。

既成法典ハ家具ノ附キタル建物ト家具ノ附カサル建物ヲ分子後者ノ場合ニシテ細別シテ全部ノ貨借
ト一部ノ貨借トレ更ニ之ヲ細別シテ貨借人ノ操作ヲ附シタルト否トヲ區別シテ各其豫告期間ヲ異ニ
スレトソヘ實際ノ権利ニ合セサル所アルノナラス密ニ過ギテ不便ヲ生スヘキヲ以テ本來ハ此レホ
通シテ一个月ト爲シタリ獨り貸席ニ至リテ他ノ建物ノ貨借ト大ニ異ナリテ容易ニ貨借シ得ルセ
ソナルヲ以テ其豫告期間ノ如キモ極メテ之ヲ短縮シテ一日ト爲シタルナリ。

動產ニ關シテ亦既成法典ノ規定ヲ改ヘ給シ其豫告期間ヲ一日トセリ

第六百二十三條 當事者カ貨貸借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内
解除ヲ爲ス権利ヲ保留シタルトキハ前條ノ規定ニ依ル

（理由）本條ハ既成法典卷之編第百五十四條、法文ノ篇ニレタルノミ

第六百二十四條 貨貸借ノ期間滿了ノ後貨借人カ貨借物ノ使用ヲ繼續スル場合ニ
於テ貨貸人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前貨貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更

三貨貸借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十二條ノ規定ニ依リ解
約ノ申入ヲ爲スコトヲ得
前貨貸借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消
滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

（理由）既成法典、當事者カ初メヨリ期間ヲ定メサル場合ト當事者ハ定タル期間ノ終了後默示ノ新
貸借ニケ場合ト其規定ヲ一二セシスト雖モ未タ之カ十分ノ理由ヲ發見カルヲ得サルヲ以テ本案ニ於チ
ニ後自己ノ承諾ヲ乞ク全ノ貸主及ヒ借主ノ隨意ニ其責任期間ヲ延長セラルトキハ迷惑ヲ感スル
モノトシタリ

既成法典、前ノ貨貸借ノ擔保シタル抵當ハ消滅シ保證人ノ義務ヲ免セリセリ保證人ノ義務ヲ免カレ
シムヘシ蓋シ保證人ハ唯其貸借ノ期間ノミ從タル責任ヲ負フノ意ヲ以テ其承諾ヲ與ヘタルモノナル
リト言フニアリ果テ然ヘテ敢ノアリ拂抵當ニキノ理ナク般ノ擔保ニ及ヒスフ可トス從テ本
案ハ此狀不更新場合ニハ前貨借ノ擔保ハ一切消滅スルノ原則トタリ電敷金ニ至リテハ其理由トスル所ハ蓋シ更新
場合ニアリテ舊貨貸借既に消滅シテ新貨借ノ發生スルモノナシハ苟モ當事者ノ意ヲ以テ更ニ從
前ノ拂當ノ貨貸借額スルキ旨ヲ表示セサル以上ハ舊貨借ノ消滅ト共ニ拂當モ亦消滅スヘキハ至當ナ
リト言フニアリ果テ然ヘテ敢ノアリ拂抵當ニキノ理ナク般ノ擔保ニ及ヒスフ可トス從テ本

保・積立質ヲ異ニスル所アルヲ以テ貸借當事者ノ意志ヲ推測シ我國ノ慣習ニ從ヒ貸借ノ更新ニ因リ
テ消滅セサルコトセリ

第六百二十五條 貸貸借フ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效

力ヲ生ス

但當事者ノ一方ニ過失アルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

(理由) 既成法典財產編第百四十五條第二項ニ「貸貸借ノ條件ノ不履行ニ因リテ終了スト言ヘリ一般ノ原則シテハ當事者一方ニ不履行ニ因リ相手方ヘ契約解除スルコト得ルモノトルニ茲ニハ

解除ド言ハヌレ特ニ終了ト言ヘルモ有意義ナシ知ニ由ナシ難モ既成法典ノ主義ニヨレ

ハ解除ノ效力ハ全然既往ニ遡リ第三者ニ對レテ其效力又有ヌルモノナルヲ以テ若貸借ノ場合ニ解除ナリトセハ其影響ノ及ニ範圍ハ頗ニ廣大ニシテ時トシテ第三者ノ権利ヲモ害スヘキニ至ラント

恐ダラン木業ニ於ケル解除ノ效力ハ既成法典ノ如ナラスト雖モ當事者間ニアリテハ既往ニ遡リハ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ本條ノ規定ヲ設ケタム其力ヲ制限セサルヘカラス然ラシレハ契約ハ既往ニ遡リテ消滅シ負債ハ初メヨリ無ドカリテ貸貸人ヘ貸借及ヒ其利息フ返還スヘク貢借人其收得ヌル果實使用ニタル利益公返還セサルヘカラス之計算及ヒ實際ノ手續煩ル煩ニシテ却當事者双方ニ害ヲ加スル以テ寧ロ解除ノ效力ニ限り單器業ニ向テノミ力アルモノトス可

レ都逸民法義案ヘ此點ニ於テ全ノ木業ト同一ナリトス

第六百三十六條 前四條ノ規定ハ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

(理由) 既成法典第百五十一條ニハ解除申入及ヒ更却ノ時期ニハ慣習ヲ採用スル旨ヲ規定スレトモ解

除ノ效力ニ關シテモ亦慣習ヲ採用シテ可ナルヘク且獨リ慣習ノミナラス特別ノ法令及ヒ契約ヲモ認ムヘナコト勿論ナルヲ以テ本條ノ如ク修正シタリ

第六百二十七條 貸借人ノ破産宣告ヲ受ケタルトキハ貸貸借二期間一定アルト

キト雖モ貸貸人又ハ破産管財人ハ第六百二十二條ノ規定ニ依リ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得シ得ス

(理由) 本條ハ既成法第九百九十三條ニ修正ヲ加ヘタルセノナリ第一ニ此ノ如キ規定ハ之ヲ民法三

置ク至落ス又商法ノ同條ニハ汎ク雙務契約ニ關シテ般ニ規定シテモ本業ニ於テハ契約ノ

效力ヲ規定ヘルニ當ツカ當事者ノ一方カ履行ノ提供ヲ爲スルアヘ相手方ハ自己ノ義務ヲ履行スルヲ

要セハシタルヲ以テ若シ一方カ破産シテ其義務ヲ履行スルヲ得サルニ至レハ相手方エ自己ノ義

務履行スルヲ要セス又若レ破産者ニシテ完全ニ履行ノ提供スル場合ニアリテハ相手方モ亦自己ノ義

務履行ヲ履行タリトテ何等ノ損害ヲ蒙ムヨトナク又時トテラハ履行ニ因リテ雙方共ニ便益ヲ得ルコトアルヲ以テ既成法典ノ如ク一般ノ規定セシテ唯其必要ナル毎ニ之ヲ言フヨシトス消費貸借

貨貸借及ヒ雇借ニ於ケルカ如キ場合即チスレナリ

第六百二十八條 契約ノ本旨ニ反スル使用ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ

第六百十一條ノ規定ニ依ル費用償還ノ請求ハ賃貸人カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年内ニシテ爲スコトヲ要ス

(理由)既成法典ハ使用貸借又ハ賃貸借ヨリ生ヌる當事者ノ権利・關レ特別ノ期間ヲ設ケサルモノ如シト雖モ本案ハ塊國民法及ヒ御選民法草案等倣テ特ニ短期内ニ此權利ヲ行使ベキモノトセリ但シ其期間ニ至リテハ塊國民法ハ使用貸借・場合ヒ賃貸借ノ場合ヲ區別シ更ニ賃貸借ノ場合細別ハレドモ獨逸民法草案ノ如ク總テ之ヲ等シタルヲ以テ便ナリトス而シテ右草案ニアリテハ其期間ヲ六ヶ月トスレトモ短キニ失スル難アル以テ本案ニ於ハ之ヲ一年トシタリ

第八節 履借

(理由)本節ノ雇借契約ノ關スル規定ニシテ既成法典與本取得編第十二章第一節ニ相當ス而シテ本案

ハ後ニ説明ヘ如ク雇借契約ノ目的トテ學術技藝ノ如キ高等ナム精神上ノ勞務ヲモ包含セシムルモノナレハ雇借ノ用語ヲ或ハ其當ヲ得サルカ如シト雖モ之多クハ從來ノ慣例若クハ威儀ノ然ラシムル所ニシテ實際上當事者ノ一方ハ精神的勞務ヲ供シ他ノ一方ハ報酬ヲ與ヘテ之ヲ使用スル人の關係ニ至リテ置純ナル體力ヲ目的トスル人の關係ト異ナル所ナキヲ以テ此關係ヲ表形スルニ最モ適當ナル用語御チ雇借ノ續用シテ只其字義ヲ擴張セリ

次ニ本節以下ハニシテ行爲ニ關スル規定ニシテ前節マテハ主トシテ物ニ關スル規定タリ而シテ行爲ニ關スル規定中最初ノ雇借契約ヲ揚クハ所以ハ雇借ハ即チ勞務・賃貸借ニシテ前節ニ規定セルモノ貨貸借ト酷似セルノミナラス其規定ハ本節以下ニ掲タル諸種ノ特別契約ニ關スル規定ニ比シテ最も簡單ナレハナリ

既成法典與產取得編第十二章ハ雇借及ヒ仕事請負ノ契約ト題シ然モ之ヲ既成法典本章ノ三節ニ分チテ雇借・習業及ヒ請負ノ三種ノ區別セリ然モ習業契約ナルモノハ既ニ既成法典本章ノ題號ニモ漏ルル如ク實際上民法中ニ斯ノ如キ特別契約ヲ認ムル必娶タク之ニ關スル通則ハ雇借契約ノ規定ニシテ從ハシムルヲ以テ足レリ又ス既成法典カ習業契約ニ關シテ規定スル所ヲ見ルニ其第二百五十七條第二項ハ雇借契約ノ規定ニ包含スヘク同二項及ヒ第一百六十八條ハ本案能力ノ規定ニ依リテ明白ナルヘク第